

# SHALOM-NETWORK

発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3  
TEL / FAX 024-567-5322Web <http://www.nposhalom.net>  
Email [info@nposhalom.net](mailto:info@nposhalom.net)

発行責任者：大竹静子

## 子どもひまわり大使派遣報告

### 京都・熊本&島根・岡山訪問 各地で交流&発表

今年も七月〜八月にかけて子どもひまわり大使の派遣が三箇所で行われました。引率担当者からの報告を掲載いたします。

#### ● 京都プログラム

(七月二十三日〜二十九日)

京都プログラムは福島県『ふるさと・きずな維持・再生支援事業』の一環。東日本大震災と原発事故を振り返り、現状をより正確に発信しようという趣旨である。夏休み初日である七月二十三日から六泊七日、一般社団法人みんなの手、丹後の自然を守る会、篠山市の村雲まちづくり協議会が快くご協力下さったお陰で、無事盛況のうちに終わることが出来た。まずもって感謝したい。京都市東山区ロータリークラブの皆さまからは義援金も頂戴した。十三人の子どもたちは家族で話合った自分のストーリーを作文にまとめ、交流の中で発信した。事前に見学したJAの取り組みについて説明する参加者もあった。

訪問先の京丹後地域は福井県原野から三十km〜五十kmの範囲。福島の子ども達の話

を聞きたいと、京都府の丹後広域振興局長や与謝野町長も駆けつけて下さった。福島原発事故以降の経験が受信され、将来への教訓として活かされることを願うばかりだ。

京都プログラムの前半では自然体験も行った。美しく豊かな日本海を守ろうと海岸清掃に汗を流した後、シーカヤックや海水浴では時間を忘れて遊んだ。漁師さんをお願いした海鮮バーベキューで食べた鯛めしは、一生の思い出に残る味だった。与謝野町では特産である由良ミカンの摘果作業体験を行った。生憎に雨となったこともあり訪問したクアハウスでは、快く迎え入れて頂き、支配人さんからラムネの差し入れを頂いた。

後半には京都市内へ移動し、私立京都橘中学校を訪問。放射線防護学の権威である安齋育郎先生による特別講義の後、在校生の皆さんとテーブルを囲んでの発表。子どもたちは緊張の面持ちだったが、年齢が近いこともあってか、中学生からは活発な質問が寄せられ、福島への関心の高さをうかがわせた。福島からの避難者も生活する兵庫県篠山市では、

農家さんの呼びかけで「ひまわりプロジェクト」にご参加頂いている。今回は村雲まちづくり協議会の皆さんが迎えて下さり、篠山市長も参加しての交流意見交換会が実現した。篠山市は希望する住民への安定ヨウ素剤配布など、原子力防災での先駆的な取り組みが際立っている。住民を守ろうとする首長の思いが福島の子ども達にも伝わったことと思う。会場となったチルドレンズミュージアムは木造の気持ちの良い施設で、地元の子どもたちも遊びに来てくれた。地域の方々が手作りしてくれたカレーライスや差し入れのスイカが、子どもたち同士を結び付けてくれた。



▶ 京都プログラム、海岸清掃を終えて充実感いっぱいの子どもたち。

#### ● 熊本&島根プログラム

(八月一日〜七日)

八月一日からの一週間は熊本・島根ツアー。『ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業』を使って八人が参加。「ひまわりプロジェクト」にご協力を頂戴しているグリーンコープ連合さんが企画・運営をサポート下さった。何人もの関係者さんが毎日フルアテンド。運転やガイドも担当下さり、安心のプログラムとなった。新幹線と飛行機を乗り継いで着いたのは雄大な景観が広がる阿蘇山。ハイキングでは、眼下に広がる緑が目につけてくるようだった。宿泊は公共施設やペンション、ロジックと多彩で、それぞれのフィールドで自然体験を満喫することが出来た。朝日の差す鍋ヶ滝、天文台での月の観察、昆虫採集など、熊本の力強い自然は圧倒的だった。

益城町では熊本地震の被災現地を訪問。全壊した住宅が多く、多くの命が失われた。仮設住宅を訪問すると二本本のひまわりが咲き競っていた。自らの被災にも関わらず、福島のために汗を流して栽培して下さいという方々の姿に、福島の子どもたちは感動を覚えたことだろう。

後半は島根県浜田市に移動。ここでもひまわり栽培に取り(二面へ続く)